

# カリキュラム・授業における子どもの学びの意味構成に関する研究

最終更新日：2015年8月31日

学校教育講座  
准教授  
樋口 裕介

**キーワード** 意味構成、授業研究、カリキュラム、授業、ドイツ教授学

**研究シーズの説明** (私は、このような研究に取り組んでいます。)

## ○研究テーマ○

図1のように、授業は、社会からの要請と、学習者(子ども)の生育歴にもとづく学習に対する要求といった諸要素の関連のうえに成立していると言えます。

子どもの生育歴・人間形成全体を見通した学びの意味を構成できるようなカリキュラム・授業づくりについて理論的・実践的に研究しています。

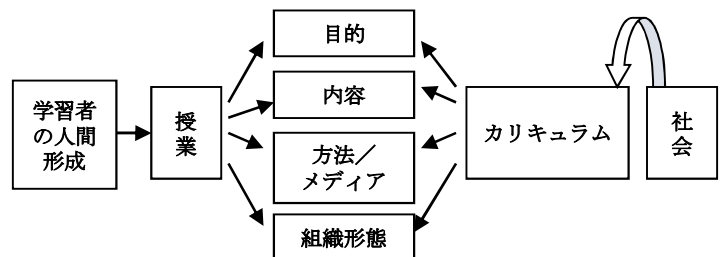


図1：社会の要請と子どもの要求との連関物としてのカリキュラム・授業 (Vgl., Meyer, M. A.: Bildungsgangdidaktik. In: Stadtfeld, P./ Dieckmann, B.(Hg.): *Allgemeine Didaktik im Wandel*. Julius Klinkhardt Verlag, Bad Heilbrunn, 2005, S. 147.)

## ○研究方法○

図1のように描かれるカリキュラム・授業について、これまで歴史的に積み重ねられてきた理論(例えばドイツ教授学)に学びつつ、そこで得られた知見から、学校のカリキュラム・授業の実践を考察・分析し、よりよい教育実践を提案します。

**成果の応用可能性** (私の活動の成果は、このような分野にこのように貢献することができます。)

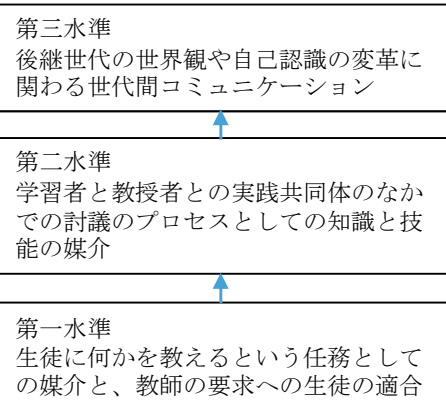


図2：授業の三つの水準

(Vgl., Meyer, M. A.: Bildungsgangdidaktik zwischen Lehrgang und Lernerbiografie. In: Arnold, K.-H./ Blömeke, S./ Messner, R./ Schlömerkemper, J.(Hg.): *Allgemeine Didaktik und Lehr-Lernforschung*. Julius Klinkhardt Verlag, Bad Heilbrunn, 2009, S. 140.)

学校のカリキュラムや授業に対して社会からの要請があるなかで、子どもたちが学校での学びの意味を構成することがめざされている教授学理論を基盤としています。ここでは、図2のような授業の三つの水準が構想されています。

これまでこうしたカリキュラム観・授業観にもとづきながら、子どもたちの「主体的な学び」、「楽しい学び」、「学ぶ権利の行使」、「合意形成」などをテーマにした県内の教育研究を観察させていただき、カリキュラムや授業の改善について提案をおこなってきました。

国際的な学力調査や全国的学力・学習状況調査の実施にもなって今後ますます社会からの要請が肥大化するなかで、そうした事態に対応しながらも、子どもたちが学びの意味を構成できるようなカリキュラムや授業の実現にむけて貢献したいと考えています。

## これまでの連携研究や社会貢献活動の実績

### ○授業研究

・平成26年度：4小学校、2中学校、2附属小学校

### ○そのほか

・平成25年度桂川町立小中学校教職員全員研修会

・平成26年度筑豊教育事務所校長及び人権・同和教育担当者研修会

・平成26～28年度福岡県重点課題研究推進連絡協議会専門委員「小中連携・一貫教育による確かな学力の育成」

・平成25・26年度福岡教育大学研究開発プロジェクト「現代的教育課題に応える共同研究の推進—音楽・図画工作・家庭・体育・書写・道徳・特別活動における言語活動の充実」